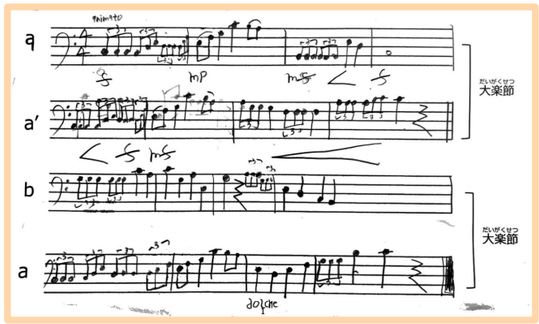
ひばり音楽教室
ソルフェージュ新聞
2025年 特別号

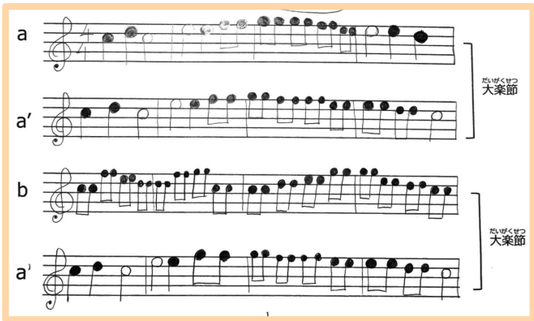
ひばり音楽教室でソルフェージュクラスが始まってから、5年目を迎えました。小学生だった生徒さんも春から中学生。この春から新たに先生が加わり、中学生の生徒さんに合わせたクラスができました。

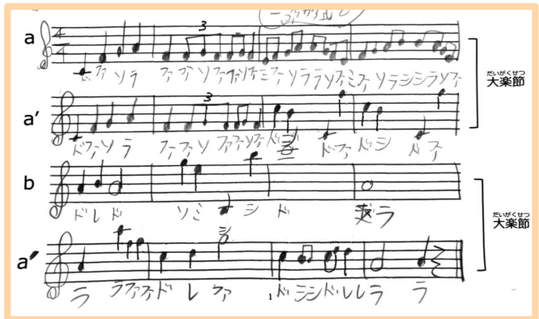
今回は、ソルフェージュの大切さについて、井上佳那子先生からのメッセージを載せています。それぞれのクラスで取り組んだ課題と共に新聞形式でご紹介いたします。

ちびっ子ソルフェージュクラス
音符をつかって絵を描いたよ♪

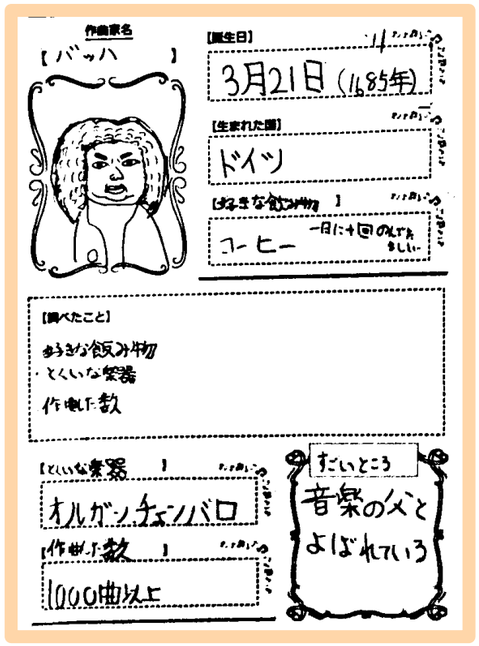
Beethoven クラス
二部形式のメロディー作りにチャレンジ！

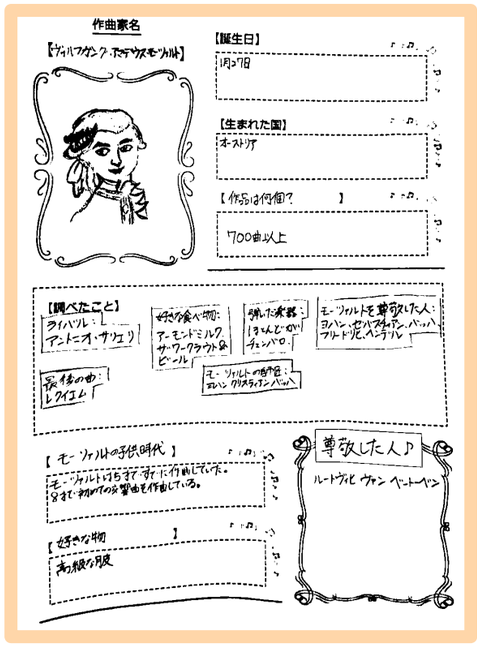






Brahms クラス
音楽家のプロフィールを作ったよ♪





ソルフェージュ講師紹介

炭谷　紗輝先生

「楽譜には、作曲家が残してくれた演奏のヒントが沢山記されています。それらを読み解く術が身に付けるようなレッスンを目指して、頑張ります。色んな角度から音楽を楽しめますように！どうぞ宜しくお願いします。」

草野　舞先生

「一緒に歌を歌ったり、体を動かしたり…
体いっぱいに音楽を感じながら、音感やリズム、そして表現する力を身につけて、より演奏することが楽しくなるような、ワクワクするレッスンを目指しています♪」

戸田　英里先生

「楽譜は書きかたのルールがたくさんあって大変ですが、だからこそ受け継がれて、長い年月が経った今も曲を弾くことができると思うと、とっても素敵です。音楽の背景を感じられるレッスンをしたいと思っています。」

井上佳那子先生からのメッセージ

子供にとったら楽譜は暗号みたいなもの

自分が子供の頃を思い出すと、耳で聴いたなんとなくの音のイメージと、指番号、そして楽譜の図形だけで楽譜を読んでいるつもりになっていた記憶があります。

特に、バイオリンという楽器をやっていて、今教えている立場にあるので、生徒さんたちを見ていると、まず弾くという作業があまりに大変で、普通に弾けるようになるまでがそもそも大変。楽譜を読まなきゃいけないことくらいわかってはいるものの、子供にとったら楽譜は暗号みたいなものです。

そして、そもそも子供たちはバイオリンという楽器を弾いてみたくて、「あんな曲弾きたい、弾けるようになりたい！」と純粋な憧れで習い始めたはずなのに、基礎に読譜にと、最初にあまりに楽しくない要素が多すぎるように思います。

ただ（過去に子供だった）、今は大人の私からのアドバイスとして、絶対に楽譜はできるだけ早く、ストレスなく読めるようになったほうがいい！ということです。

無駄に難しいと思い込んでいるところがある

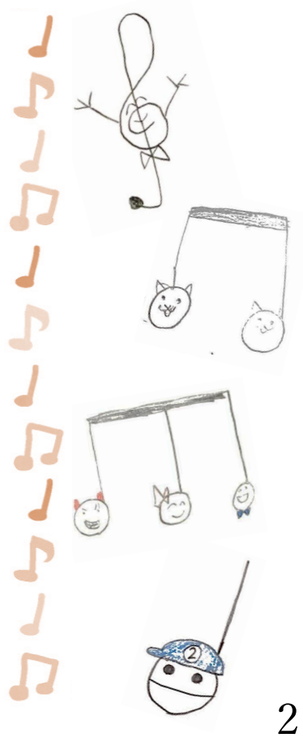
その理由はもちろんたくさんありますが、まず大前提として、聴いたイメージと指番号と図形だけでは、楽譜とほぼ違う音楽になっているということです。

何調で、何拍子で、どこに拍頭があって、連符ならその中にどんな音があって、それをどんなふうに歌えばいいかなど、実は何もわからずにやって、無駄に難しいと思い込んでいるところがあります。きちんと理解をして弾けば何も難しくないのに、わからないから難しい。練習の仕方もわからない。

例えば、音がモゴモゴしているとか、微妙に拍がズレてるとかそんなことって子供達によくあることだと思いますが、技術的なことも、もちろんあるものの、そもそもの楽譜を理解できていないから、そうなるところはかなり大きな要因だと思います。

私も子供の頃よく思っていたことは、速くてパッと聴きとっても何を弾いてるかよくわからない曲を、知りもせずに難しい！と決めつけていました。でも、実は楽譜をしっかり読んで、目の前のことを少しずつやっていけばそんなに難しくなかったなんてことは、よくあります。

（3ページへ）



ひばり音楽教室　ソルフェージュ新聞　2025 年　特別号

感覚的な部分は実はすごく大切な部分

簡単に言うと、絵を描くのに、実は何色の絵の具を使って、どんな形の刷毛を使って、紙のどの部分に描いているかもわからずに絵を描いているようなものです。

ただ、その感覚的な部分は実はすごく大切な部分でもあって、それを無くして欲しいという話ではありません。むしろその部分を否定せず、大切に育てつつ、知らず知らずのうちに知識として入っていって気がつけば楽譜が読めている、これが理想的なんだと考えています。

そして、ここまでは初歩的な話でしたが、そもそも楽譜があると言うことは、それを作曲した誰かがいて、その作曲者の意図というものを読み取る必要があるわけです。

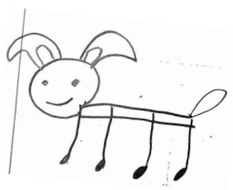
楽譜はいわば、作曲者からの手紙

楽譜はいわば、作曲者からの手紙みたいなものだと考えています。それをできる限り読み取りたい想いで、私は今日もソルフェージュの勉強をしています。

私自身はその事に気づくのにかなり時間がかかってしまいましたし、大きくなってからの勉強はやっぱり大変でした。

そう言った意味で、生徒さんたちには、日頃からソルフェージュに慣れ親しみ、楽しく学んでいるうちに体に入っていた、と言うふうになってほしくて、このクラスを開講しました。

もうソルフェージュ・クラスができてから5年目になりますが、今ではたくさんの生徒さんがソルフェージュを楽しく学び、長く続けている生徒さんは、こんな曲無理だろうなと思っていたような大曲を自分で譜読みして、演奏できるようになるまでに成長してくれました。

「ひばりソルフェージュ」が理想的な形で生徒さんと共に成長して行ってくれていることをとても嬉しく思っています。

井上佳那子